

こんにちは  
日本共産党です

# 待機児を理由に 保育の質低下は許されません

待機児解消は  
市長の責任です

日本共産党流山市議団  
いぬい紳一郎 7159-2773  
小田桐たかし 7154-0878  
徳増 きよ子 7148-6871  
植田 和子 7154-0288  
市議団事務所  
TEL/FAX 7157-6140

待機児	162人
北部	29人
中部	52人
東部	20人
南部	61人

6月議会で日本共産党市議団が取り上げた質問内容を連載しています。今回は保育行政(1)についてです。

**待機児162人**

「H23年4月1日には待機児が解消できる」―これは昨年6月議会での部長答弁です。しかし、今年4月の待機児は国基準で43人、求職中の母子家庭なども含めると162人にも見通しの甘さが露呈しました。

## 市長は真摯に反省を

党市議団は、児童福祉法で50人以上の待機児がいる自治体へ義務付けされている『保育計画』を策定し、本格的な待機児解消を提案。子ども家庭部長は必要性を認めるも、「今年度360人分を増員する」「県協議で対応する」としました。一方、市長は「法に違反していない」

## 保育の質向上は待機児解消と一体で

党市議団は、待機児解消の取り組みと一体で、保育の質向上へ2つの実態を告発しました。

第一に、保育の最低基準引き下げです。認可保育園における

23年度における整備計画	定員(▲削減)
おおたかの森南西地区保育所 新設	180名
おおたかの森南東地区保育所 新設	90名
おおたかの森ナーサリースクール 増築	10名
公立長崎保育所・名都借保育所 廃止	▲160名
新長崎保育所 民営化	120名
新名都借保育所 民営化	120名

と待機児の続出に反省はありませんでした。

最低基準は、世界でも最低ランク。数十年、改善されておらず、専門家からも拡充が求められています。

にもかからわず、流山市が導入した『待機児ゼロ計画』は、基準

の引き下げが焦点です。本市でも認可外保育園や園庭を持たないビル内保育の拡大も不安視されています。

保育士1人:子どもの数  
(下線分は市独自の取組み)

	国基準	流山市
0歳児	1:3	1:3
1歳児	1:6	<u>1:4</u>
2歳児	1:6	1:6
3歳児	1:20	<u>1:17</u>
4・5歳児	1:30	1:30

また市民運動の歴史と歴代市政がすすめてきた公立園での保育士加配(保育士を増やし、一人一人の子どもにより多く寄り添った保育を提供するため)の大幅後退も心配されています。

**正規保育士でもワーキングプア**

第二に、保育士の低賃金化です。保育園は、大幅な利益を生み出す施設ではありません。したがって、私立園は運営や保育士の待遇改善に公的支援が欠かせないのです。勤続年数を概ね同

一とした場合の一月給与は、公立園の臨時保育士で17万2千円に対し、私立園の正規保育士は平均19万8千円。一番低い私立園では15万円という場合も。

国家資格を有し、朝7時前から夜9:10時まで勤務ローテーションをこなしてもワーキングプアなのです。市内の私立園では正規保育士にダブルワーク(パート等の掛け持ち労働)を勧める事態です。

待機児解消と子どもの発達保障・質の向上は車の両輪です。みんな力で力を合わせましょう。